

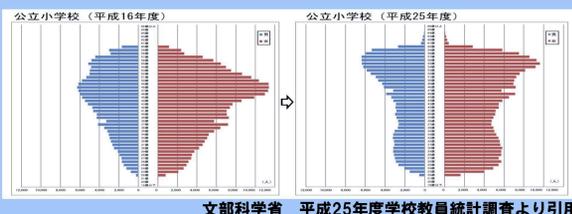
小学校における若年教師の授業実践力向上を目指した取組事例 — SEL-8S実践に伴うコンサルテーションの実施を通して —

○ 泉 徳明（福岡教育大学教職大学院・北九州市立足立小学校）／ 小泉 令三（福岡教育大学）

問題と目的

今日の学校現場では・・・

教師の大量退職に伴う若年教師の増加



社会的能力の育成にかかわる取組の推進

教師の指導力向上が喫緊の課題

- ▷ 若年教師の授業実践力向上を高めるための支援として、
- ▷ SEL-8Sプログラムにより児童の社会性を高めていく中で、
- ☆ 若年教師へのコンサルテーションの効果を検討する。

本事例における「授業実践力」とは

「北九州市 教師のしおり」を参考に、以下の5点を授業実践力と定義した。

- 子どもの実態の把握
- 発問・指示の明確化
- 学習規律の確立
- 子ども同士の関わり合いの充実
- 評価的発言の励行

SEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 abilities at School) とは

「学校における8つの社会的能力育成のための社会性と情動の学習」と訳される、予防・開発的学習プログラム。8つの社会的能力（下に記載）の向上を目指している。

方法

発表ポスター例（2016年度学校心理学会）

○ 調査対象者

福岡県内の公立小学校1校の■年生1学級（男子■名、女子■名）の担任教師

- ▷ 教職■未満の■教師
- ▷ 学級経営に難しさを感じ、授業規律の確立や生活面の指導に頭を悩ませる

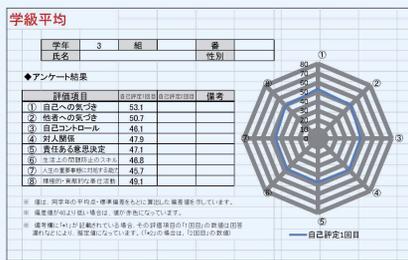
○ 調査内容

- ① 教職能力についての調査（教師用社会性と情動尺度、5件法）
 - ・ 基礎的な社会的能力（15項目）／教職能力（3項目）
- ② 小学生用SEL-8S自己評定尺度（4件法）
 - ・ 8つの社会的能力（自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意思決定、生活上の問題防止のスキル、人生の重要事態に対処する能力、積極的・貢献的な奉仕活動）（26項目）

○ コンサルテーションの実際

① 授業の計画（■年9月）

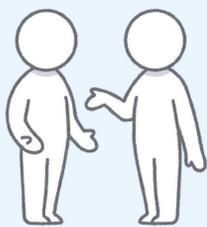
- 小学生用SEL-8S自己評定尺度の結果をもとに、担任教師と協議してプログラムを決定した。
- 試行的に「自己のコントロール」「対人関係」に焦点を当てた実践を行った。



実施月	プログラム
H■年10月	こころの信号機
11月	おこっているわたし
12月	イライラよ、さようなら
H■年1月	おはよう、こんにちは、さようなら
2月	しっかり聞こう
2月	わすれもの（ショートプログラム）

② 授業モデルの提示（■年10月）

- 1回目の実践では、第一著者が授業モデルを示した。
- ▷ 担任教師は児童の様子を観察。
- ▷ ロールプレイのモデリングでは担任教師も授業に参加した。



④ ショートプログラムの試行（■年2月）

- 15分×3回を1セットとするショートプログラム
- 午後に毎日行われている帯学習の時間を活用し、3週間にわたって実施した。
- 指導案を第一著者が作成し、担任教師が授業を行った。

学習活動	指導上の留意点
1. 忘れてしまった理由を説明する。 ① アンケートに答え、自分の忘れ物の状況についてふりかえる。 ② 全く忘れ物をしていない時忘れ物をする理由を説明する。 ③ いつも忘れ物をする理由を説明する。	○ これから3回に分けて忘れ物の学習をしていくことを伝える。 ○ 学習人数を確認する。 ○ ワークシートに記入後、発表させる。
2. 忘れ物をしないための方法を考える。 ① 前時に忘れ物の理由について、忘れ物をしないための方法を考える。	○ ワークシートに記入後、発表させる。次回のワークシートに生かすようにする。 ○ 次時は、忘れ物をしないための方法について考えさせる。
3. 次時の学習内容を伝える。	○ 次時は、「忘れ物ゼロ作戦」について考えさせる。

⑤ 強化の工夫（■年11月～■年2月）

- 一週間にわたる児童による自己チェック
- 学級通信や懇談会等を通じた保護者への啓発
- 二次的支援としてカードを用いた振り返りの機会の提供

● 1週間チェック

あなたが決めた作せんができていくかかかしくんします。できていれば「○」、できていなければ「×」を、書きましょう。

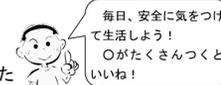
月/日	/	/	/	/	/	/
○・×						

児童による自己チェック

ろうか 歩き方 チェックシート ()

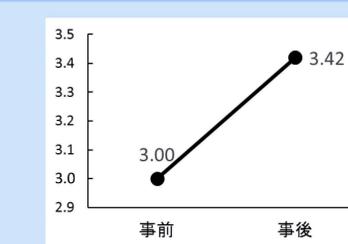
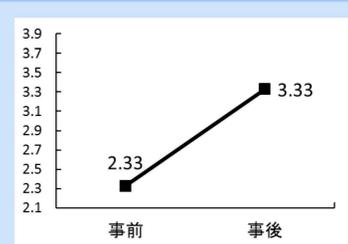
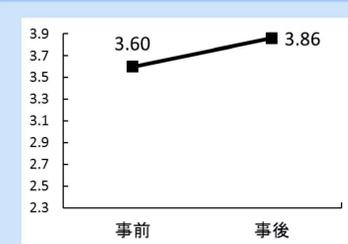
11/3	11/4	11/5	11/6	泉先生からのメッセージ
●	●	●	●	

- ...1回も走らなかった
- △...1回走ってしまった
- ×...何回も走ってしまった



二次的支援のカード

結果と考察



担任教師の感想

- 子どもが背筋を伸ばし、授業に臨む姿に感動した。
- 子どもたちの前向きに成長したいという思いを改めて感じる事ができた。

授業実践力の変容(担任の自己評価)

- 曖昧だった指示を、明確に徹底するようになった。
- 学習中の子どもたちの関わり合いの大切さがよく理解できた。

児童の変容(担任の観察による)

- 前向きな発言や友だちを思いやる言動の増加
- 時間を守る、黙って教師や友だちの話を聞くなど、授業規律の向上

● 実践の課題

- ▶ 調査対象者が1名（1学級）であり、コンサルテーションの有効性を確認するために十分とはいえない。→ 他の若年教師も対象にして検証を重ねる。
- ▶ 教師による主体的な実践を促すための手立てが十分ではなかった。→ フィードバックシートを活用した半構造化面接を実施し、児童の変容や自信の力量の向上を自覚できるようにする。

● 今後の方向性

- 半構造化面接の実施を通して、以下の支援を行う。
 - ・ 複数の教師への支援
 - ・ 実践の価値づけによる教師の主体的な実践の促進
 - ・ 児童や自身の変容の認知向上

➡ コンサルテーションの有効性が確認された。